

日本地球化学会ニュース

No.82/83

1978. V. 15

会告 1978年度日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

開催日 昭和53年10月5日(木)～7日(土)

会場 北海道大学水産学部(函館)

内容 一般講演、特別セッションおよびシンポジウム
【特別セッション】

コンピーナーの方針と工夫により、とりあげたテーマにつきより深く討論し、より実りあるセッションとなるよう配慮されたもの、したがって形式は各セッション毎に異なるが、関連する従来の一般講演的なものも含まれるので講演を公募する。

テーマとコンピーナーおよび趣旨

1. 堆積物と水溶液間の元素分配(北野 康)

単一鉱物あるいは堆積物中の鉱物と水溶液との間の元素分配の測定法、測定結果および測定結果の地球化学的論議などを含めこの課題のセッションを持ちたい。

2. 環境有機物研究の現状と将来(石渡 良志)

環境における有機物研究は近年分析法の進歩と環境汚染の深刻化とともにさかんになってきた。しかし、多岐に渡る研究の位置や方向が見失われがちである。このセッションでは研究発表とともに研究の現状をレビューし将来の課題を浮彫りにしたい。

3. 岩石-鉱物-水相互作用と水素同位体比(日下部実) 水素同位体を通してみた地質現象に焦点を当てる。岩石-鉱物-水相互作用における水素同位体の挙動や分配からどのような知見が既存の知識に加えられ得るか、という点に重きを置いた研究発表を歓迎する。

4. 河川水質の現象解析(市川 新)

河川における物質の挙動を解明するための、水質調査法、水質の再現性と代表値のとりえ方、水質の変動、河川内での物質収支、堆積と流出に関する平衡関係、シュミレーション手法によるモデル化などと地球化学的手法との関連について議論を深める。現実の問題か

ら出発した議論を歓迎する。

5. 大気圏・海洋における化学物質のフラックス

(半田 暢彦・角皆 静男)

地表物質の風化に始まり、海底堆積物として固定されるまでの間の物質の流れを海洋を中心にとらえる。各ステージにおけるフラックスの見積り、それを支配する因子、機構、それらの時間的変動(環境問題も入る)などを討論する。

6. 新しい惑星化学を模索する(小沼 直樹)

「地球」という対象を時間的にも空間的にも一まわり大きく把握する見方を導入するために、一度「地球」をはなれ、銀河系から太陽系を見て、「地球」をクローズアップする。その新しい学問領域を開拓するには「さしあたって」および「長期にわたって」何をすればよいか考えてみる。

シンポジウム

地球化学の現状と将来(コンピーナー、松尾 禎士)

地球科学の一分野である地球化学には、再現性のある現象のほか、再現性のない本質的にうつろいやすい現象の追求が基本的に含まれる。2, 3の例をとりあげて日本における研究の現状と将来の問題点をふかす。一方、日本における地球化学振興のために本学会が担うべき方向を探ることを試みる。話題として(1)元素の分配則、(2)地震予知、(3)実験室と自然界との間、(4)関連領域からの注文と批判、(5)日本における地球化学の位置などを考えている。

講演申込締切 6月24日(土)

同封の別紙申込用紙により申込んで下さい(一般講演、特別セッションとも講演を希望される方は200字程度のアブストラクトをつけて下さい)。

講演要旨原稿締切 8月19日(土)

講演申込み受け付け次第オフセット用原稿用紙をお送りします。原稿用紙1～2枚に黒インクで清書しお送り下さい。

学会事務局は下記へ移転致しました。

日本学会事務センター・日本地球化学会係

〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センター

ビル(4階) 電話 東京 03(815)1903

その他の日本地球化学会へのお問い合わせは下記へお願い致します。東京都立大学理学部化学科 石渡 良志

(庶務幹事) 〒158 東京都世田谷区深沢2-1-1

電話 東京 03(717) 0111

要旨集予約および参加申込締切 9月9日(土)

予約金を当日までに郵便振替または銀行振込みでお支払い下さい。要旨集と参加証をお送り致します。参加費は不要です。

要旨集代

予約(上記)した場合 2,500円(郵送料含む)

予約されない場合 3,000円(郵送料含む)

総会 10月6日(金)

懇親会 10月6日(金)18時ころより(会費2,500円)

会費は9月9日(土)までにお支払い下さい。

要旨集代・懇親会費送金方法 (開期中できるだけ現金取扱いが避られるようご協力下さい)。

[郵便振替]

口座番号=函館2219, 加入者名=1978年地化年会

[銀行振込]

北海道拓殖銀行函館支店

普通預金口座 番号583-606, 1978年地化年會委

員長 西村 雅吉

申込書・要旨原稿等送付先

〒041 函館市港町3丁目1番1号 北海道大学水産学部 1978年度日本地球化学会年会 実行委員長 西村 雅吉 (電話0138(41) 0131, 内線309, 310, 311)

評議員会報告

と き: 1977年6月11日, ところ: 静岡日興会館
出席者: 小穴進也会長, 本田副会長, 市川, 岡部, 北野, 倉沢, 猿橋, 杉浦, 杉村, 田中, 立川, 寺田, 鳥居, 増田, 三宅, 山形各評議員

1. 報告

(1) J S C, 地球化学宇宙化学研連関係

5月10日~13日第2回元素の起源と分布シンポジウムがババリであり, 本田会員が出席した。

World Directory of Isotope geochemists 1977

(1ドル)が刊行された。

1978年3月15日~16日Environmental GeochemistryのシンポジウムがLondonで開催される。

1978年にインドでSolid State Geochemistryのシンポジウムが開催される。

1980年I G C総会が開催される。

(2) 各委員会

庶務: 1984年にI G C-I U G S総会を日本で開催する可能性についてJ S Cの説明会に出席した。1977年C W A J奨学生の募集要領を受領した。N G O被爆の実態と後遺, 被爆者の真相に関するシンポジウムは本会後援で7月31日~8月2日広島で行われる。会員名簿1977年版を編集している。ニュース: 80号は年会予告をのせて発行した。

81号年会プログラムは8月上旬発行予定。

編集: G. J. Vol. 11, No. 2および地球化学は6月中旬に発行する予定。

財政: 1978年度予算編成作業の実施。

行事: 6月例会を6月11日東海大で開催, 参加者60名。(演題) 南極観測の20年の歩み-地球化学を中心として- 鳥居鉄也, 隕石 本田雅健。

環境: 5月24日, 「環境の定量化と解析」講演会を日化講堂で行なった。出席者80名。

将来計画: I U P A Cは9月5日~10日東京で開催。39回日化ハワイ年会(1979年4月1日~6日)は日米合同で行なう予定。今年度の総研B(地球化学)は不採択になった。

年会: 特別講演2件を決めた。

選挙: 3月17日委員会をひらき, 倉沢委員が委員長に選出された。9月26日メチです、めている。

2. 議事

(1) 石灰化機構第3回国際シンポジウム(1977/10)の協賛を承認した。

(2) 学会誌展示会への出品, モスクワ国際書籍展(ナウカ書店よりの依頼)および学会誌展示会(学会事務センターより依頼)へG. J. の出品を承認した。

(3) 入退会, 入会8(正会員)退会6(正会員)を承認した。6月現在, 正会員831, 賛助18, 名誉7, 計856。

(4) 学会事務所移転について, 具体案は副会長が世話役となり, 次回に提出することとした。これに関連して, 会則15条の改訂も次回検討することとした。

(5) 1978年度予算案, 1977年度給与24万円追加支出を承認した。職員退職金については常識的ルールにしたがうことを前提に継続審議とした。

(6) 国際学会・シンポジウム関係, I U G S-I G C 1984年総会(日本)については地球化学宇宙化学研連で検討することした。また, 1982年Geochronology, Cosmochronology, Isotope Geology シンポジウムの日本開催について主催団体となるかどうかについては継続審議とした。

(7) 出版事業について, 環境委より提案の「水汚染の機構と解析」出版計画を承認した。内容は河川, 湖沼, 海のケーススタディの編め, 環境委編集として出版社に依頼する。

ニュース合本製作の企画をすゝめることを承認した。

(8) G J 外国へのP R文書については慎重に取扱うようにとの要望があった。

(9) G. J. 寄贈, 「Current Contents」に G. J. 3部を寄贈することを承認した。

1977年度日本地球化学会総会報告

10月21日11:30~12:30東京大学理学部化学教室新館5階講堂で会員約80名出席のもとに行なわれた。

1. 会長挨拶
2. 年会委員長挨拶
3. 1976年事業および決算報告, 西村監事の監査結果の報告があり, これを承認した(別掲。)
4. 1977年度事業中間および収支中間報告が行われた。
5. 1978-79年度役員選挙結果を報告した。
6. 1978年事業計画および予算案を承認した。
7. 会則第6条, 第15条の一部改訂を承認した(別掲。)

1976年度事業報告

1. 会員現況	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1975年12月末	792	17	1	810
入会	44	1	6	51
退会	11	0	0	11
名誉会員へ移動	6			6
1976年12月末	819	18	7	844

2. 委員会等開催数

総会	1	財政	3	ニュース	3
年会	1	編集	2	環境	3
例会	2	行事	2	将来計画	2
評議員会	3(幹事会3)			会則	2

3. ニュース発行 76, 77, 78, 79号計18頁1,000部

4. 会誌: G. J., Vol. 9, No. 4, Vol. 10, No. 1~3, 222頁
1,200部 地球化学 Vol. 10, No. 1 63頁
1,000部発行

5. 学協会主催

第13回理工学における同位元素利用研究発表会(1976/6) 第5回生命の起源シンポジウム(1977/4) 第26回国際純正応用化学連合会議(1977/9) G D P国際シンポジウム(1978/3)

6. 名誉会員の推薦
飯盛里安, 石橋雅義, 木村健二郎, 南英一, 菅原 健, 太秦康光

7. 評議員会
1976年2月14日 本郷学生会館
6月12日 京都楽友会館
10月13日 名古屋王山会館

8. 例会
2月14日 湖沼学の勃興と発展-西村信吉著「湖沼

学」復刻刊記念 西条八束, 菅原健
ところ: 東大・理・化学教室

6月12日 第四紀火山岩中の微量元素の挙動

西村 進

分析化学と地球化学 藤永太一郎

ところ 京大・理・化学教室

1976年度決算報告書 (1975.1.1~12.31)

収 入	円	(予算千円)
前年度繰越金	2,439,885	
正会員費	3,630,299	3,200
賛助会員費	,260,000	300
購読料	1,809,991	1,600
刊行補助金	530,000	550
超過頁代・別刷代	964,435	1,350
銀行利息	62,657	50
広告代	0	50
雑収入	20,000	
合 計	9,717,267	7,100
支 出	円	(予算千円)
基本運営費	19,000	50
学術的会合費	150,000	150
出版費	3,855,430	4,200
発送通信費	553,230	600
編集費	150,000	100
名簿出版費	280,000	280 積立金
回収不能損	—	320
通信費	184,000	200
会議費	120,181	150
人件費	600,000	600
事務費	194,123	200
銀行等手数料	82,055	50
同位元素研究発表会	4,000	200 予備費
次期繰越金	3,525,248	—
合 計	9,717,267	7,100

1978 事業計画

1. 総会 1回 10月
- 年会 1回 10月6~8日(北大水産学部)
- 例会 2回 (2月, 6月)
- 評議員会 3回 (2, 6, 10月)

- 講演会、各委員会
2. ニュース発行 3回
3. 会誌: G.J. Vol.12, 1~4 275頁 1,500部
地球化学 Vol.12 1~2 100頁 1,000部
4. 学協会との共催等: 第15回理工学における同位元素利用研究発表会(1978/6), その他。
5. 学会事務所移転

1978年予算 (1978. 1.1~1978.12.31)			
収入	千円	支出	千円
会費	5,460	事業費	9,809
刊行物売上	4,240	出版費	6,735
広告料収入	50	行事費	300
助成金	700	名簿印刷費積立	250
雑収入	50	事務委託費	1,128
前年度繰越金	2,200	会誌販売委託費*	1,396
総計	12,700	管理費	小計 1,100
		学会アルバイト費	300
* 日本学会事務センターへの委託事務		会議費	300
会誌、ニュース、例会		通信費	50
通知書の発送、会員外への会誌販売、会費の請求、徴収、バック		旅費交通費	300
ナンバーの販売等		消耗品費	50
		雑費	100
		積立基金	500
		予備費	1,291
		総計	12,770

会則第6条、第15条の一部改訂

第6条 会員はつぎの種別に従って会費を前納しなければならない。

第16条 本会の事務所は東京都文京区弥生2-4-16 (財)日本学会事務センター内におく。

日本地球化学会1978・1979年度役員選挙結果

53年9月30日(金)気象研究所地球化学部会議室で開票を行ない、下記の結果が得られた。

会長 半谷高久 (次) 本田雅健
副会長 北野 康 (次) 本田雅健
監事 鳥居鉄也 (次) 杉浦吉雄
評議員 a b c 順

北海道: 八木健三 中部: 坂野昇平
(次) 角皆静男 半田 彦
東北: 青木謙一郎 金森 悟
(次) 田口一雄 中井信之
関東: 安藤 厚 岡部史郎
不破敬一郎 (次) 寺田喜久雄
市川 新 近 畿: 増田彰正
石渡良志 (次) 桑本 融

木越邦彦 中国・四国: 立川 涼
松尾禎士 (次) 松井義人
長沢 宏 九州: 樽谷俊和
小嶋 稔 (次) 山口 勝
佐藤和郎
柴田 賢
綿拔邦彦

(次) 池田長生

1977年度 中 間 報 告

1. 会員異動 正会員 賛助会員 名誉会員 計
1976年12月末 819 18 7 844
入 会 52 0 0
退 会 24, 除29, 逝去1 逝去 1
1977年10月19日 817 18 6 841
2. 委員会等開催数
総会1, 年会1, 評議員会3 (2, 6, 10月)
幹事会3 (1, 5, 9月), 例会2 (2, 6月)
3. ニュース発行 80, 81号 計12頁 1,000部
4. 会誌: G.J., Vol.10, No.4, Vol.11, No.1~3, 238頁,
27論文, レター4 地球化学Vol.11, No.1
49頁3論文, 2寄稿
5. 1977年度名簿発行
6. 1978・79年度役員選挙
7. 学協会共催および後援
環境の定量化と解析講演会(1977/5) 第14回
理工学における同位体元素利用研究発表会(1977/6)
無脊椎動物および植物の石灰化機構に関する
第3回国際研究集会(1977/10) N G O被爆
の実態と後遺, 被爆者の真相に関する国際シン
ポジウム(1977/7) 第21回国際理論応用陸水学
会(1980/8)

評議員会報告

とき: 1977年10月19日, ところ: 東京学士会館本郷
分館 出席者: 小穴進也会長, 本田副会長, 市川,
小嶋, 岡部, 鎌田, 北野, 倉沢, 桑本,
猿橋, 杉浦, 杉村, 田中, 立川, 寺田,
鳥居, 増田, 三宅, 山形各評議員

1. 報 告

- (1) JSC, IAGC関係, IAGC評議員ツガリノフ(ソ連)逝去, 研連から弔電を送った。IAGC評議員に久城育夫氏が選出されたので, 地化学化研連の委員に追加委嘱した。

1978年8月デンバーでGeochronology, Cosmo chronology, Isotope, Geologyのシンポジウムが開かれる予定。

(2) 各委員会

庶務, ニュース, 編集, 財政, 環境, 将来計画

年会, 選挙各委員会の報告があった。

2. 議 事

- (1) 入退会を承認した。1977年度総会報告参照。
- (2) 1977年度総会次第を決め, 総会に提出する。
1976年度事業報告, 1977年度中間報告, 1978年事業計画案, 1977年度会計中間報告の内容を承認した。
- (3) 会則改訂, 会則第6条の改訂案を総会に提案することとした。
- (4) 12月例会, 12月10日東大理化学教室で「琵琶湖掘削試料の古気候の研究」堀江正治, 中井信之両氏に依頼した。
- (5) 1978年度年会は10月5~7日北大水産学部(函館で)行なうことを決めた。年会委員長西村雅吉会員。
- (6) 日本学会事務センターとの, 会員事務および会誌販売業務委託契約の更新を承認した。
- (7) 学協会との共催等, 総会報告参照。
- (8) 南英一名誉会員の御逝去(9/15)に伴い, 生花弔辞を献呈した。またG.J.に写真および追悼文を掲載することを決めた(Vol.11, No.4.)
- (9) 図書等, 寄贈依頼等, 中国国際自然科学書展にG.J.の出品を承認した。Chemical Abstractに地球化学の寄贈を承認した。

The ACS/CSJ Chemical Congress: 1979ご案内

標記会議は, 日本化学会と米国化学会との合同年会で, カナダ, オーストラリア・ニュージーランド各化学会が公式参加しております。国内では化学関係学協会会員は自由に参加できるようになっており, プログラムの編成等についても, 各学協会の協力が進められております。

年会開催要領は, あらまし次の通りです。

日時: 1979年4月1~6日

場所: ホノルルの各ホテル

研究発表: 日本語でもよい(要旨, スライドは英語),
発表締切は1978年10月10日, 日本化学会必着
参加登録: 登録料は会員60, 同伴者20, 学生15各ドル,
宿泊料は5~40ドル, 渡航費は12万円位の予定。
登録予約: 予約ご希望の方は, 本人および同伴者1名につき1万円ずつを郵便振替口座東京7-6058日本化学会へお振込み下さい。ニュースレターをお送り

するほか, ご希望の航空便とホテルを確保する等の便宜をおはかりします。なおハワイ年会の詳細については, 「化学と工業」12月号のハワイ年会便り-2を参照されるか, 日本化学会ハワイ年会係(101千代田区神田駿台1-5, 電話03-292-6161)神森または松前にお問合わせ下さい。

(出席者, 講演題目などの予備登録は本年6月末まで)

予定されている28セッションの中, 地球化学に関連のあるセッションは次の2つです。

・地球化学・鉱物化学・宇宙化学部門(日本側コンピーナー 北野 康)

・環境化学部門(日本側コンピーナー 藤永 太郎)

日本化学会では毎年, 地球化学・鉱物化学・宇宙化学のセッションが年会でもたれていますが米国化学会には該当する部門がありません。そのために日本側の提案により, 次の2つのシンポジウムと一般講演が行われることになりました。一般講演はその内容を日米関係者間で検討中です。環境化学部門では次の7つのシンポジウムの開催が計画されています。

■ 地球化学・鉱物化学・宇宙化学部門

1. Minor components of sea water and marine sediment (堀部純男)
2. Chemistry related to volcanism (松尾禎士)

■ 環境化学部門

1. Ultimate disposal of hazardous waters (R.B. Pojasek, 宗森 信)
2. Biological effect of environmental pollutant: nitrogen oxides(S.D. Lee, 中島泰知)
3. Aerosols and chambers for biological exposure studies(K. Willeke, 井伊谷鋼一)
4. Processes of involving contaminations and sediments(R.A. Baker, 山泉 登)
5. Sampling and analysis of ambient aerosols (G. Gordon, 浜口 博)
6. Analysis of polar and high molecular weight materials in water(W.H. Glaze, 石渡良志)
7. Trace element analysis in hydrosphere(藤永 太郎, E.D. Goldberg)

◆鳥居鉄也会員, 地球化学研究協会学術賞(三宅賞)を受賞

1977年度地球化学研究協会学術賞(三宅賞)は, 鳥居鉄也会員「南極地域の地球化学的研究—とくに塩湖の地球化学」に授与された。受賞式は1977年12月9日, 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館で行われた。

本会名誉会員 南 英一氏（東京大学名誉教授）は昭和52年9月15日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

本会より生花弔辞を献呈いたしました。また、Geochemical Journal 11巻267～8頁に同氏のありし日の御写真と追悼文を掲載いたしました。御遺族より本会宛20万円の御寄付をいただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

1978～79年度会務分担

会 長	半谷高久	副 会 長	北野 康
庶務担当	石渡良志	会計担当	綿抜邦彦
〃	小椋和子*	編 集	増田彰正
行 事	松尾禎士	財 政	木越邦彦
ニュース	安藤 厚	将来計画	中井信之
会則検訂		環 境	市川 新
極 地	鳥居鉄也	監 事	鳥居鉄也
1978年会	西村雅吉*		
追加承認評議員			

《 新 刊 紹 介 》

●微量元素 — 環境科学特論 —

山形 登著 産業図書（1977）286頁2,300円

微量元素は従来いくつかの異なる分野のクローズド・サークルの中で研究されてきた。それが「公害」という形で社会にクローズアップされると、各分野にわたる知識を横につなげる必要を生じてきた。山県氏はこの観点より、多年にわたり蓄積した知識と研究成果を駆使し、地球化学、生物地球化学、生態学、疫学、毒物学などの分野で微量元素を取扱う場合の基礎的概念を環境科学特論としてまとめたのがこの本である。ひとつの新しいふかんとして優れた成著であり、関係研究者の一読をお勧めしたい。（安藤 厚）

●現代鉱床学の基礎

立見辰雄編 東京大学出版会（1977）

258頁 3,200円

1976年まで東大の鉱床学の講座を担当された立見教授の編集の下に、鉱床学に関連した各分野の専門家17名がそれぞれ得意とする事項について執筆し、全体として現在の鉱床学の基礎に横たわる諸問題を解説している。地球化学者の寄稿も多い。鉱床に関係した諸分野の人に鉱床学の直面する諸問題を解説する本として非常に優れた本であり、地球化学者の一読をお勧めしたい（長沢敬之助）。

《学界カレンダー 1978(国内)》

月	期 間	学 会 名	開催地	その他
5	23～25	日本気象学会（春）	東京	
6	12～15	分析化学討論会	北見	
6	27～29	理工学における 同位元素発表会	東京	
7	11～13	日本温泉科学会	岐阜県宝村	
7	12～14	日本陸水学会	奈良	
9	30～10/4	日本海洋学会（秋）札幌		
10	1～3	放射化学討論会	東京7/16メ切	
10	4～7	三鉱学会	広島6/30メ切	
10	5～7	日本地球化学会年会	函館6/24メ切	
10	11～15	日本分析化学会	金沢6/20メ切	
10	15～18	日本化学会38秋季年会名古屋	名古屋6/10メ切	
11	14～16	日本気象学会（秋）	仙台7/20メ切	
11	17～19	日本火山学会（秋）	阿蘇	

《学会カレンダー 1978～79(国外)》

8	3～18	IGCP始生界の地球化学	オンタリオ （カナダ）～ミネソタ（米）
8	13～19	国際鉱床連合	ソルトレーク近郊（米）
8	14～18	隕石学会	サドベリー（カナダ）
8	20～25	地質年代学・宇宙年代学・同位体地質学 国際会議	スノーマス（米）
9	4～10	国際鉱物学会	ノボシビルスク（ソ連）

編集者 安藤 厚・柴田 賢

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル（4F） 日本学会

事務センター内

電話 東京 03(815) 1903

振込先銀行 三井銀行上野広小路支店

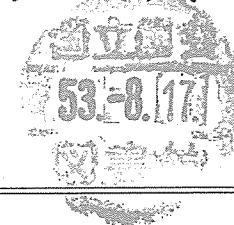
口座番号 9-55247

215-314

日本地球化学会ニュース

No. 84

1978. VIII. 10



1978年度 日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会

後援 日本化学会

日時 1978年10月5日(木)～10月7日(土)

会場 北海道大学水産学部

函館市港町3-1-1

(連絡先 0138-41-0131 内線309 西村雅吉)

	会 場	9：00	12：00	13：00	17：00	18：00	21：00
5 日 (木)	A		一 般 講 演		一般講演	特別—5—1	ナ イ ト セ ッ シ ョ ン 特別—5—2 特 別 — 6 (市民会館)
	B		特 別 — 4		特 別 — 4		
	C		特 別 — 1		特 別 — 1		
	D		一 般 講 演		一 般 講 演		
6 日 (金)	A		特 別 — 5 — 3		総 会	シンポジウム	懇 親 会 (学部厚生会館)
	B		一 般 講 演				
	C		一 般 講 演				
	D		一 般 講 演				
7 日 (土)	A		特 別 — 5 — 4		特別—5—4	一般講演	
	B		特 別 — 2		特 別 — 2	一般講演	
	C		一 般 講 演				
	D		特 別 — 3		一 般 講 演		

シンポジウム 10月6日(金) 14:30~18:00 大講義室
「地球化学の現状と将来」 コンビナー・松尾禎士

- (1) 元素の分配則
(2) 地震予知—再現性のない現象をとらえることと関連して
(3) 実験室と自然界の間—海水を例として
(4) 日本の地球化学への批判と注文

- (5) 日本における地球化学の位置

坂野昇平(金沢大理)
増田彰正(神戸大理)
脇田 宏(東大理)
角皆静男(北大水産)
半谷高久(都立大理)
椎川 誠(秋田大教育)
増田彰正(神戸大理)
坂野昇平(金沢大理)
松尾禎士(東工大理)

特別セッション (テーマとコンビナー)

1. 堆積物と水溶液間の元素分配 北野 康
2. 環境有機物研究の現状と将来 石渡良志
3. 岩石—鉱物—水相互作用と水素同位体比 日下部実
4. 河川水質の現象解析 市川 新
5. 大気圏、海洋における化学物質のフラックス 半田暢彦 角皆静男
—1 海洋における化学物質のフラックス
—2* 世界における大気圏、海洋の化学研究の動向
—3 大気圏における物質移動
—4 堆積物の初期続成過程と化学成分

- 6 新しい惑星化学を模索する 小沼直樹

*ナイトセッション 10月5日(木) 18:00~21:00 函館市民会館・小会議室(湯の川町1—32—1)

特別—5—2 座長 半田暢彦、和田英太郎

話題提供者 堀部純男 国内における海洋研究計画の最近の動向について
角皆静男 国外における二・三の海洋研究の動向について

特別—6

話題提供者 田中 剛(増田彰正) スペース・チェンバー構想
小沼直樹 惑星を作るための戦略

総会 10月6日(金) 13:00~14:20 大講義室 懇親会 10月6日(金) 18:00より学部厚生会館食堂

講演時間:一般講演は討論を含め15分

特別セッションについては〔講演のみ〕、(討論を含む)の時間

A会場

第1日 10月5日(木)

一般講演(9:00~12:00) 座長 杉浦吉雄

5 A 01 海水中のアルカリ度の高精度なルーチン分析法
角皆静男、渡辺康憲、横山 純(北大水産)

5 A 02 海水中における炭酸の平衡について
池上 尚、金森 悟(名大水研)

5 A 03 太平洋西北部および日本海の溶存ガス分布 5 A 06 日本海におけるCo, Ni, Cu

乗木新一郎、西村雅吉(北大水産)

5 A 07 南シナ海、および印度洋における銅の分布
西村雅吉、増田宣泰(北大水産)

5 A 08 海水中のCu, Cd, Tl, Ba濃度
室住正世、中村精次、水戸部博志
五十嵐龍志(室蘭工大)
坪田博行(広島大)

5 A 09 東京湾海水中の銅の分布、その季節変化
座長 桑本 融
前田 勝、宮原 司、牧嶋正身
高野正徳(東工大)

5 A 10 死海の水の化学組成
三宅泰雄(地球化学研究協会)
鈴木 款、杉村行勇(気象研)

5 A 11 放射性固体廃棄物の深海投棄に関する試算
(2) 杉浦吉雄(気象研)
三宅泰雄(地球化学研究協会)
猿橋勝子(気象研)

(13:00~14:00) 座長 杉村行勇
5 A 12 水圏における²²⁸Ra/²²⁶Ra比
(その2)日本海およびフィリピン海
大久保隆(神戸商船大)
阪上正信(金沢大理)

5 A 13 海水中の懸濁態マンガン
中村鉄也、岡部史郎(東海大海洋)
5 A 14 海水中の微量金属元素の存在状態について、
そのI. 銅、亜鉛、ニッケル等
豊田恵聖(東海大海洋)
金森 悟、北野 康(名大水研)

5 A 15 海水中のクロムの溶存状態
藤永太一郎、桑本 融、中山英一郎
鶴房繁和(京大理)

特別—5—1
(14:10~17:00) 座長 半田暢彦・南川雅男
5 A 16 セレンの沈澱機構に関する研究(15分)
玉暉宗夫、岡田高佳、玉利祐三
平木敏三、西川泰治(近畿大理工)

5 A 17 東海村沿岸水域における微量元素の分布と挙動(15分) 杉村行勇、鈴木 款(気象研)
三宅泰雄(地球化学研究協会)

5 A 18 内湾海水からの元素の除去と堆積(15分)
松本英二(地調)

5 A 19 海洋表層水の²³⁴Th/²³⁸Uと深層水の²¹⁰Pb/²²⁶Raによる物質除去過程の考察(20分) 角皆静男、原田 晃(北大水産)

5 A 20 海洋におけるSEDIMENT TRAP実験による物質の除去機構(20分)

角皆静男、植松光夫、田中教幸
原田 晃(北大水産)
田上英一郎、半田暢彦(名大水研)

5 A 21 沿岸域のSediment trapに捕集された⁷Be、²¹⁰Pb及びTh同位体(20分)
田中教幸、原田 晃、角皆静男(北大水産)

5 A 22 懸濁粒子による有機物の鉛直輸送について(20分)
半田暢彦、田上英一郎(名大水研)

5 A 23 セディメントトラップによる自生性有機物の湖底へのフラックスの推定(20分)
杉浦敏昭、半田暢彦(名大水研)

第2日 10月6日(金)

特別—5—3

(9:00~12:00) 座長 角皆静男・中谷 周

6 A 01 大陸起源物質の海洋への輸送(30分)
角皆静男、品川高儀(北大水産)

6 A 02 大気圏から日本各地への化学物質の降下量(15分) 品川高儀、角皆静男(北大水産)

6 A 03 降水起源の栄養塩および有機物(15分)
小倉紀雄、五十嵐公文(東京農工大)

6 A 04 大気中の硫黄の起源について(15分)
辻 康、中井信之(名大理)
大原洋治(和歌山工専)

6 A 05 安定同位体¹³C、¹⁸Oからみた大気中CO₂の挙動(15分) 葛木泰宏、木島宣明
酒井 均(岡山大温研)

6 A 06 昭和基地における降雪の酸素同位体組成について(15分) 加藤喜久雄(名大水研)

6 A 07 降水・エアロゾル中のセレンおよび微量元素について(15分)
鈴木 款、杉村行勇(気象研)
三宅泰雄(地球化学研究協会)

6 A 08 洋上の大気および降水中のPb—210(15分) 品川高儀、角皆静男(北大水産)

6 A 09 本州南方海域、東部インド洋、日本海表面海水中的プルトニウム(15分)
阪上正信、中西 孝、矢島 充
瀬長真知子、竹井美智子(金沢大理)

第3日 10月7日(土)
特別—5—4
(9:00~12:00) 座長 松本英二・増沢敏行

7 A 01 沿岸大陸棚域堆積物表層における窒素循環

- (30分) °服部明彦、小池勲夫(東大海洋研)
- 7 A 02 三河湾底泥からの栄養塩類の回帰 (15分)
°松永捷司、半田暢彦(名大水研)
- 7 A 03 鹿児島湾奥部海底からの炭酸ガス供給速度
(15分) 堀部純男、°蒲生俊敬、馬場祐治
広江伸明、坪田博行(東大海洋研)
- 7 A 04 大阪湾底質コアの化学物質プロファイル
(15分) °立川 涼、脇本忠明、川野公栄
本田克久、伊藤治郎(愛媛大農)
- 7 A 05 本邦太平洋沿岸の海底泥質堆積物の化学組成
(15分) 杉崎隆一(名大理)
- 7 A 06 堆積物中のマンガンの分布とその海洋におけ
る地球化学的収支 (15分)
°日下部正志、角皆静男(北大水産)
- 7 A 07 日本海深海堆積物の間隙水における3つの型
の続成変成について (15分)
増沢敏行(名大水研)
- 7 A 08 深海底土中の重金属の存在状態と移動の可能
性について (15分)
角皆静男、°米丸 泉(北大水産)
- 7 A 09 堆積物中の間隙水の化学組成
—日本海盆およびフィリピン海盆— (15分)
°加藤義久、小田秀夫
岡部史郎(東海大海洋)

- (13:00~14:00) 座長 松本英二・増沢敏行
- 7 A 10 ベーリング海堆積物におけるトリウム、ラジ
ウムの分布と過剰なラジウムについて(15分)
角皆静男、°山田正俊(北大水産)
- 7 A 11 深海性マンガニーズノジュールの放射化学的
成長速度測定の一考察 (15分)
°平良初男(琉球大理工)
瀬長真知子(金沢大理)
- 7 A 12 深海底堆積物の¹⁰Be年代測定 (15分)
井上照夫、°田中重男(東大核研)
- 7 A 13 沿岸堆積物中の金属元素について (15分)
合田四郎、°山崎秀夫
西川泰治(近畿大理工)

一般講演 (14:15~17:00) 座長 鎌田政明

- 7 A 14 濃尾平野地下水中のSO₄²⁻のS同位体組成に
ついて
°荻田晴久、水谷義彦(名大理)
茶谷邦夫(愛衛研)、桑原 徹(名城大)
- 7 A 15 箱根仙石原湿原の水質
°栗屋 徹、平野富雄、横山尚秀
小沢 清、小鷹滋郎、荻野喜作

- 大木靖衛(神奈川温研)
- 7 A 16 沖縄南部地区の石灰岩地帯と非石灰岩地帯の
水質
°兼島 清、大森 保(琉球大理工)
- 7 A 17 天然水中のカドミウムの分布について
°吉原仁夫、柳 勝美、安部美津子
菅原 健(相模中研)
- 7 A 18 降水および相模川水系中の水銀の分布につい
て
安部美津子(相模中研)
- 7 A 19 河川、湖水中の各態鉄について
座長 市川 新
°松永勝彦、五十嵐康二
深瀬 茂(北大水産)
- 7 A 20 大沼の科学的研究(1) 栄養塩収支と基礎生
産
°松永勝彦、米田義昭
深瀬 茂(北大水産)
- 7 A 21 琵琶湖の無機環境 I. 水、懸濁物、生物の
元素分布
°小山陸夫、松下録治(京大原子炉)
川島宗継、板坂 修、堀 太郎(滋賀大)
高松武次郎(国立公害研)
藤永太一郎(京大理)
- 7 A 22 琵琶湖の無機環境 II. 堆積物における化学
変化と成分の水圏回帰
°小山陸夫、松下録治(京大原子炉)
高松武次郎(国立公害研)
川島宗継、板坂 修、堀 太郎(滋賀大)
藤永太一郎(京大理)

B会場

第1日 10月5日(木)

特別—4

- (9:00~10:00) 座長 小椋和子
- 5 B 01 河川底質中金属類濃度と微細粒子含有率の関
係について (20分)
小川 務(愛知県公害調査センター)
- 5 B 02 Ca-MontmorilloniteによるCu²⁺、Zn²⁺、
Cd²⁺の吸着 (20分)
°荻原俊夫、小平 潔(足利工大)
伊藤和男(名古屋市公害研)
- 5 B 03 樹脂を用いた河口水中の溶存重金属類の捕集
(20分)
- 5 B 04 河川水中における有機物の挙動 (20分)
°近藤正夫、坂井 勉、山本 甫、高井義治
荒川幸夫(愛知県公害調査センター)
荻田晴久(愛知県環境部水質保全課)
- (10:10~12:00) 座長 安部喜也
- 5 B 05 汚濁物質の発生機構と流下過程に関する研究

- (20分) 市川 新(東大工)
- 5 B 06 南浅川における物質収支—連続観測により推
定される人間活動の影響 (20分)
°小倉紀雄、北條敏彦(東京農工大農)
- 5 B 07 今市盆地のBOD収支 (20分)
平山光衛(宇都宮大)
- (13:00~15:00) 座長 小倉紀雄
- 5 B 08 河川の水質解析と水質予測 (30分)
°那須義和、橘 治国(北大工)
- 5 B 09 光合成作用による河川の水質変動 (20分)
小椋和子(都立大理)
- 5 B 10 大分川水系の水質に及ぼす温・鉱泉水の影響
(20分) °川野田実夫、志賀史光(大分大教育)
矢野哲郎(渡町台小)
- 5 B 11 玉川毒水の水質挙動とその中和反応効果
(20分) 後藤達夫(岩手大教育)
- 5 B 12 河川水の流量変動に伴う化学組成の変化
(20分) °渡久山 章、野原智子(琉球大化学)
- (15:10~17:00) 座長 市川 新
- 5 B 13 赤外線熱映像による河川の水質予測(20分)
荒木春視(東洋航空)
- 5 B 14 河川水質 (20分) °平山光衛(宇都宮大)
小沢竹二郎、当麻喜明(埼玉大)
- 5 B 15 河川水質に関する一統計処理 (20分)
°糸山東一(香川大教育)、真鍋俊彦(徳島大工)

第2日 10月6日(金)

一般講演 (9:00~12:00) 座長 石渡良志

- 6 B 01 海水中の溶存炭水化物物について
°平山 宏、平木敬三、西川泰治(近畿大理工)
重松恒信(京大化研)
- 6 B 02 マコモ醗酵物中のP-クマル酸とフェルラ酸の
測定 °片瀬隆雄(神奈川衛生短大)
半谷高久(都立大理)
- 6 B 03 湖底堆積物の形成初期におけるステロール還
元反応を規定する環境要因—I
°西村弥亜、小山忠四郎(名大水研)
- 6 B 04 湖底堆積物の形成初期におけるステロール還
元反応を規定する環境要因—II
°西村弥亜、小山忠四郎(名大水研)
- 座長 米田義昭
- 6 B 05 堆積物におけるスタノールの起源
°西村弥亜、小山忠四郎(名大水研)
- 6 B 06 保温実験における脂肪酸の安定性について
°松田ひろみ(新日本気象海洋)

- 小山忠四郎(名大水研)
- 6 B 07 琵琶湖柱状堆積物中の不飽和脂肪酸
°河村公隆、石渡良志(都立大理)
- 6 B 08 堆積物中の不溶性有機物の解析 I. フミン
酸とケロゲン 福島和夫(都立大理)
座長 小山忠四郎
- 6 B 09 堆積高分子有機物(Kerogen)による有機化合
物のとりこみ現象について
°山本修一、石渡良志、福島和夫(都立大理)
- 6 B 10 Kerogen中に存在するポリメチレン鎖の起源
について
°町原 勉、石渡良志(都立大理)
- 6 B 11 堆積有機物の続成作用のシミュレーション、
(1)リピッド成分の固化現象の解析
°塩谷 真、石渡良志(都立大理)

第3日 10月7日(土)

特別—2

- (9:00~10:15) 座長 石渡良志
- 7 B 01 大気中有機成分の分析法の現状と問題点
(25分) 安部喜也(国立公害研)
- 7 B 02 エーロゾルの多環芳香族化合物の高速液体ク
ロマトグラフィーによる分析 (15分)
°佐藤 修、半田暢彦(名大水研)
- 7 B 03 光化学スモッグチャンバーによる大気中有機
化合物の反応に関する研究 (25分)
秋元 肇(国立公害研)

(10:15~11:20) 座長 小椋和子

- 7 B 04 GC-MSによる水、底質中微量有機物(中
性成分)の分析法 (25分)
°古賀 実、篠原亮太、貴戸 東、衛藤修一
堀 悌二(北九州環境衛生研)
- 7 B 05 河川水ならびに河川底泥中のABS (15分)
°本波裕美、半谷高久(都立大理)
- 7 B 06 汚濁河川水中の有機物の化学的特徴 (15分)
°浜名 浩(埼玉工業大)
町原 勉、石渡良志(都立大理)
- (11:20~12:00) 座長 篠原亮太
- 7 B 07 水環境における多環芳香族炭化水素の挙動
(25分) 松島 肇(浜松医大衛生)
- 7 B 08 堆積物中の炭化水素、脂肪酸およびフェノー
ルカルボン酸 (15分) 松本源喜(都立大理)
鳥居鉄也(千葉工大)
半谷高久(都立大理)

- (13:00~14:20) 座長 半田暢彦
- 7 B 09 環境有機物の地球化学的役割 (20分)

- 石渡良志 (都立大理)
- 7 B 10 水中有機物の行動と粘土鉱物との関係 (20分)
°小椋和子、三上玲子 (都立大理)
- 7 B 11 東シナ海、日本海、オホーツク海海水中の溶存微量元素の化学形について (15分)
°杉村行勇、鈴木 歎 (気象研)
三宅泰雄 (地球化学研究協会)
- (14:20~15:20) 座長 半谷高久
- 7 B 12 環境有機物の生態系にはたす役割 (25分)
後藤幹保 (学習院大理)
- 7 B 13 都市堆積物の有機物組成の特徴と生物試験 (15分)
°半谷高久、石渡良志、小椋和子、松本源喜、信楽義夫、宮内慎太郎、朴 吉淳 (都立大理)
遠藤立一、佐々木裕子 (東京都公害研)
長尾孝一、松崎 理 (千葉大医)
- 一般講演 (15:20~17:00) 座長 和田英太郎
- 7 B 14 湖底堆積有機物のメタン醗酵による分解速度の推定
°小山忠四郎、西村弥亜 (名大水研)
松田ひろみ (新日本気象海洋)
- 7 B 15 現世堆積物中の有機原物質とガス状炭化水素
°米谷 宏、大場信雄 (地 調)
- 7 B 16 アミノ酸のラセミ化による堆積物の年代測定について (II)
°田中信幸、半田暢彦 (名大水研)
- 座長 立川 涼
- 7 B 17 海底土中のステロールについて
児玉剛則 (愛知県公害調査センター)
- 7 B 18 間隙水に含まれるフミン物質に関する研究
°門谷 茂、米田義昭、深瀬 茂 (北大水産)
- 7 B 19 オホーツク堆積物における蛋白様物質の続成変化
°米田義昭、門谷 茂 (北大水産)
石井次郎 (東海大札幌)

C会場

第1日 10月5日(木)

特別—1

- (9:00~12:00) 座長 一国雅巳・北野 康
- 5 C 00 本セッションを開くに当って
北野 康 (名大水研)
- 5 C 01 aragoniteからcalciteへの変質における微量元素の挙動 (13分)
北野 康、金森暢子 (名大水研)
°吉岡小夜子 (愛教大)
- 5 C 02 マグネシウムカルサイトの水溶液中での溶解

- 変質 (13分) °大山 茂、北野 康 (名大水研)
- 5 C 03 Monohydrocalciteのmagnesian calciteへの転移 (13分)
北野 康、金森暢子、°新垣 武 (名大水研)
- 5 C 04 バテライトからカルサイトへの転移 (13分)
°渡久山 章、上原博紀 (琉球大化学)
- 5 C 05 炭酸カルシウムの結晶化過程の速度論的研究 (II) (13分) 大森 保 (琉球大理工)
- 5 C 06 炭酸カルシウムによるケイ酸の共沈澱 (13分)
北野 康 (名大水研)
°奥村 稔、井戸垣正俊 (鳥根大理)
- 5 C 07 水溶液とあられ石との間のフッ素の分配 (13分) 一国雅巳 (東工大総合理工)
- 5 C 08 カドミウムのリン酸カルシウム—溶液間の分配 (13分)
北野 康、金森暢子、°藤吉亮子 (名大水研)

(13:00~15:10) 座長 赤岩英夫・北野 康

- 5 C 09 サンゴ化石中のアラゴナイト含量と微量元素含量の関係 (13分) °寺井 稔、(都立大理)
堀 信行 (広島大科学)、三国智美 (名大理)
- 5 C 10 カルサイトへのCo, Ni, Mn, Znの分配 (13分) 赤岩英夫、川本 博、相沢省一
°金子雅保 (群馬大工)
- 5 C 11 葛生地区炭酸塩岩の微量重金属元素含量 (13分) 赤岩英夫、°相沢省一 (群馬大工)
- 5 C 12 貝殻—環境水間の微量元素の分配現象への結晶構造支配則の適用 (13分) °小沼直樹
増田富士雄、横井 弘、平野真孝 (筑波大)
- 5 C 13 生物性炭酸カルシウム殻による環境変化の推定 (13分)
北野 康、°金森 悟、金森暢子 (名大水研)
吉岡小夜子 (愛教大)
- 5 C 14 海洋性生物が形成するカルシウム質物質中の希土類元素 (13分)
池内嘉宏、°増田彰正 (神戸大理)

(15:10~17:10) 座長 樽谷俊和・北野 康

- 5 C 15 河口域堆積物中の各種鉱物および有機物間への重金属元素の分配 I. 分別溶解法の検討 (13分) 北野 康、°坂田昌弘 (名大水研)
- 5 C 16 河口域堆積物中の各種鉱物および有機物間への重金属元素の分配 II. 河口域堆積物への分別溶解法の適用 (13分)
北野 康、°坂田昌弘 (名大水研)
松本英二 (地調)
- 5 C 17 岩石、海水間のイオン交換量を求める実験 (13分)

- °中谷 周、本居泰治、西村雅吉 (北大水産)
- 5 C 18 日本海堆積物の鉱物組成と間隙水中の化学成分の変化について (13分) °石塚明男
藤岡換太郎、堀部純男 (東大海洋研)
- 5 C 19 水酸化アルミニウムに吸着したケイ酸の挙動 (13分)
中村 修、横山拓史、°樽谷俊和 (九大理)
- 5 C 20 水和酸化物と水溶液の相互作用について
アルミニウム水和酸化物と α -Quartz (13分) °忽那一也、金森 悟 (名大水研)

第2日 10月6日(金)

一般講演 (9:00~12:00) 座長 増田彰正

- 6 C 01 Allende 隕石生成に関する一考察
°海老原 充、赤荻正樹
本田雅健 (東大物性研)
- 6 C 02 Allende CAIのCore-Rim構造の鉱物化学
°西田憲正、大塚芳郎、小沼直樹 (筑波大)
- 6 C 03 Allende 隕石中のCa同位体組成
°小山康直、本田雅健 (東大物性研)
- 6 C 04 隕石中のクロム同位体組成
°鎌田正弘、仁藤 修
本田雅健 (東大物性研)
- 座長 本田雅健
- 6 C 05 Melrose-b howardite中の希土類元素
°増田彰正 (神戸大理)、田中 剛 (地 調)
- 6 C 06 REE及びSm—Nd同位体系より見たNa-khlaエイコンドライトの進化について
°中村 昇、増田彰正 (神戸大理) D.Unruh
立木光信 (U.S.Geological Survey)
- 6 C 07 Moamaエイコンドライトの希土類元素の分化—REE存在度及びSm—Nd年代—
°中村 昇 (神戸大理) J.Hamet, D.Unruh
立木光信 (U.S.Geological Survey)
- 座長 小沼直樹
- 6 C 08 アポロ12、15号月試料のSm—Nd年代
°中村 昇 (神戸大理)、D.Unruh
立木光信 (U.S.Geological Survey)
- 6 C 09 鉄隕石中の珪酸塩インクルージョン
°福岡孝昭 (学習院大理)
J.L.Gooding (Univ. New Mexico)
R.A.Schmitt (Oregon State Univ.)
- 6 C 10 Chassigny隕石の由来
°福岡孝昭 (学習院大理)

第3日 10月7日(土)

一般講演 (9:00~12:00) 座長 兼島 清

- 7 C 01 国際深海掘削計画 (I P O D) 第57節における有機地球化学の船上成果
°佐藤俊二 (石油公団)
奈須紀幸 (東大海洋研)
Roland von Huene (米国地調)
他乗船科学者一同
- 7 C 02 I P O D / D S D P 第57節コアサンプル中の有機物の続成変化
°佐藤俊二、森島 宏、浅川 忠 (石油公団)
- 7 C 03 ニジェールデルタの二、三の坑井における有機物変成と石油生成
°松林英樹、森島 宏 (石油開発技術センター)
関口嘉一、平井明夫 (帝石技研)
- 7 C 04 北海道産原油の炭化水素組成パターンによる分類と根源岩同定への応用
工藤修治 (石油資源開発技研)
°武田信従 (石油開発技術センター)
- 座長 小沢竹二郎
- 7 C 05 須恵器の地域特性を示す因子
°三辻利一、門尾好宏、西岡淑江
若林郁世 (奈良教育大)
- 7 C 06 粘板岩中のMn, Ca, Mgの存在状態とESRスペクトル
礎部敏幸 (九大理)
- °稲積章生 (香川大教育) 樽谷俊和 (九大理)
- 7 C 07 昭和基地付近の氷河堆積物の粉末X線回折像について
村山治太 (横浜国大教育)
- 7 C 08 第三系泥質岩中の硫黄の形態
粕 武 (地 調)
- 座長 西村雅吉
- 7 C 09 岡山県下三大河川 (高梁川、旭川、吉井川)の浮遊物中の金属量及び溶存重金属の河川流量及び季節との関連について
°寺岡久之、小林 純 (岡山大農業生物研)
- 7 C 10 河川浮遊物に含まれる21種の金属量の研究について (第3報) 東南アジア10ヶ国における分布
°小林 純、寺岡久之 (岡山大農業生物研)

D会場

第1日 10月5日(木)

一般講演 (9:00~12:00) 座長 吉田 稔

- 5 D 01 男体山 (第四紀火山灰) の化学成分
°斉藤武夫、飯塚俊彦、氏家淳雄

- (群馬県衛生公害研)
- 5 D02 鉄質沈澱物の析出状態
鈴木勘子(東北大学)
- 5 D03 北海道濁川盆地周辺の温泉について
吉田 裕(日本重化学工業)
- 5 D04 松代温泉水の起源の推定
鶴見 実(東工大総理工)
座長 杉崎隆一
- 5 D05 硫酸水溶液と過剰の火山岩の反応(2)
吉田 稔(東工大)
- 5 D06 紀伊半島諸温泉の地下温度
田中 昭、佐藤幸二(中央温研)
- 5 D07 島根県東部における温泉の地球化学的研究
比留川 貴、永田松三、池田喜代治(地調)
座長 柴田 賢
- 5 D08 流紋岩—海水間熱水反応実験
白木亮司、酒井 均、木島宣明、田崎和江
(岡山大学温研)
- 5 D09 400°C、1000 atmにおける SO_4^{2-} — H_2S 間の同位体交換平衡定数及び交換速度
鎌田恵美、酒井 均、木島宣明(岡山大学温研)
- 5 D10 熱水条件下での有機物による硫酸の還元
清棲保弘(名大理)
- 5 D11 断層空气中的 He/Ar 、 N_2/Ar 比による地震予知
杉崎隆一(名大理)
(13:00~17:00) 座長 小坂丈予
- 5 D12 昭和新山噴気孔ガスの同位体組成の経年変化について
水谷義彦(名大理)
- 5 D13 焼岳噴気孔ガスの同位体および化学組成について
杉浦 孜(愛知教育大)
水谷義彦(名大理)
- 5 D14 化学成分変動による熱水量の推定
綿抜邦彦(東大教養)
- 5 D15 温泉水のリチウム含量に関与する因子(続報)
高松信樹、今橋正征(東邦大)
神谷 宏(名工大)
座長 綿抜邦彦
- 5 D16 大分県野矢地区の地球化学的地熱探査
古賀昭人、野田徹郎(九大温研)
- 5 D17 秋田県玉川温泉の溶存成分の経年変化(続)
吉池雄蔵、岩崎岩次、岡村 忍、谷津雅子
(東邦大理)
- 5 D18 有珠山噴火後の水試料にみられる地球化学的特徴について その1. 主として化学組成について
安孫子 勤(室蘭工大)
鈴木紀夫、千葉 伝、野口浩一、吉田向弘

- 渡辺修一(東工大)、日下部 実(富山大理)、佐竹 洋(防災センター)、安孫子 勤(室蘭工大)、野津憲治(筑波大化学)
- 小坂丈予、平林順一(東工大)、林 保(上智大理)、小沢竹二郎(埼玉大)
- 5 D19 有珠山噴火後の水試料にみられる地球化学的特徴について(その2) 主として同位体組成について
松尾禎士、牛木久雄
大隅多加志、垣内正久、形山賢二、北 逸郎
座長 古賀昭人
- 5 D20 有珠山周辺の H_2 を含む soil gas
野津憲治(筑波大)、脇田 宏(東大理)
藤井直之(神戸大)、島村英紀(北大)
- 5 D21 栗駒広域地熱地域における温泉の帯状分布(その1. 主要・微量溶存組成)
阿部喜久男、茂野 博、安藤直行
池田喜代治、後藤隼次(地 調)
- 5 D22 栗駒広域地熱地域における温泉の帯状分布(その2. 水の酸素・硫酸同位体組成)
茂野 博、阿部喜久男、安藤直行
池田喜代治、後藤隼次(地 調)
座長 水谷義彦
- 5 D23 鹿児島湾北部海域における潜水調査と海底噴気ガスの成分
小沢竹二郎
君島克憲(埼玉大)、大西富雄(鹿児島大教養)、小坂丈予、平林順一(東工大)
- 5 D24 潜水調査により採取された北部鹿児島湾水域における海水の成分異常
鎌田政明、坂本隼雄(鹿児島大理)
- 5 D25 鹿児島湾北部海底の噴気孔付近で採取された底土と海底活動の環境に及ぼす影響について
小坂丈予、平林順一、(東工大)
鎌田政明、坂本隼雄(鹿児島大理)
小沢竹二郎(埼玉大)

第2日目 10月6日(金)

一般講演(9:00~12:00) 座長 脇田 宏

- 6 D01 地熱温泉地帯の土壌中の水銀及びヒ素の分布について(トムラウシ鹿の沢温泉地区)
松浪文博(道立地下資源調査所)
- 6 D02 山崎断層・塩田温泉の塩素濃度と地震現象との関連
吉岡龍馬(京大防災研)
- 6 D03 断層周辺の土壌ガス組成について—伊豆半島域—
永田松三、加藤 完、伊藤吉助(地 調)
- 6 D04 断層周辺の土壌ガス中のラドン—伊豆半島地域—

- 池田喜代治、永田松三、加藤 完(地調)
座長 野津憲治
- 6 D05 地球化学的地震予知研究(3) ラドンの気出効果
脇田 宏(東大理)
野口正安(日本分析センター)
- 6 D06 CNトラック法、オープンバイアル法による土中ラドンの定量と断層との関係について
飯島南海夫(信州大教)
堀内公子、村上悠紀雄(都立大理)
- 6 D07 北海道の河川底質・土壌における地球化学的研究 第1報 おもに金属鉱山周辺の河川底質についての地質学的考察
藤田隆男、安藤和夫(道公害研)
座長 鈴置哲朗
- 6 D08 土壌中の窒素同位体組成
和田英太郎、柴田勘子(三菱化成生命科研)
- 6 D09 窒素固定過程にともなう同位体効果とその生態系における意味
南川雅男、和田英太郎(三菱化成生命科研)
- 6 D10 硬石膏—水系における酸素同位体分別係数の温度依存性(続報)
千葉 仁(東工大)、日下部 実(富山大理)
- 6 D11 常温付近における水の気液二相間の同位体分配(続報)
垣内正久、松尾禎士(東工大)

第3日 10月7日(出)

特別—3

(9:00~10:25)

座長 日下部実

- 7 D01 含水珪酸塩と水との間のD/H分配に関する実験的研究(30分) 鈴置哲朗(気象庁)
- 7 D02 Brucite—水間の酸素同位体分配比の温度依存性(15分) 佐竹 洋(防災センター)
松尾禎士(東工大)
- 7 D03 Albite melt—水間の酸素同位体分配比について(20分) 佐竹 洋(防災センター)
平野真一(名大人工結晶研)、松尾禎士(東工大)、宗宮重行(東工大材研)
- 7 D04 ベリドタイト—海水反応の重水素および各種元素の挙動に関する実験的研究(20分)
堤 真、酒井 均、木島宣明(岡山大学温研)
(10:25~12:00) 座長 水谷義彦
- 7 D05 地熱地帯に産する粘土鉱物の重水素濃度について(20分)
丸茂克美(名大理)、長沢敬之助(静岡大理)
- 7 D06 岩石の水素及び酸素同位体比に記録された熱水作用(20分) 松久幸敬(地 調)

- 7 D07 岩石学におけるD/H分配に関する問題(20分)
黒田吉益(信州大)、鈴置哲朗(気象庁)
松尾禎士(東工大)

一般講演(13:00~17:00) 座長 松尾禎士

- 7 D08 地球化学的試料の絶対放射化分析法
小山睦夫、松下録治(京大原子炉)
- 7 D09 火山フロント沿いに見たTh系、U系放射能とK濃度
佐藤和郎(東大震研)、佐藤 純(明大工)
- 7 D10 本邦花崗岩類のRb—Sr全岩年代とK—Ar鉱物年代との関係
柴田 賢、石原舜三(地 調)
- 7 D11 カーボナタイト中の希土類元素
大出 茂、北野 康(名大水研)
諏訪兼位(名大理)
座長 阪上正信
- 7 D12 IPOD—DSDP Leg51(バーミューダ海膨)の火山岩の希土類元素の精密定量—希土類元素の固体型パターンの表示方法について
清水 洋、増田彰正(神戸大理)
- 7 D13 Diopside-Silicate melt間の希土類元素の常圧での分配実験 寺門靖高、早瀬一一(京大理)
増田彰正(神戸大理)
- 7 D14 北海道第四紀火山岩中の希土類元素
藤谷達也、増田彰正(神戸大理)
勝井義雄(北大理)
- 7 D15 石英の格子振動とその酸素同位体分配関数比について
川辺岩夫(名大理)
座長 赤岩英夫
- 7 D16 鉱物中の陽イオン拡散係数の測定
森岡正名(東大RIセンター)
長沢 宏(学習院大理)
- 7 D17 火山性層状硫化物鉱床の鉛の起源について
佐藤和郎(東大震研)、佐々木 昭(地 調)
- 7 D18 黒鉱鉱床生成期の環境進化史的背景
梶原良道(筑波大地球化学系)
座長 鳥居鉄也
- 7 D19 始生代の海の化学像
梶原良道(筑波大地球化学系)
佐々木 昭(地 調)
- 7 D20 南極ドライバレーのEvaporiteの産状と同位体組成による古環境の推定
中井信之、和田秀樹(名大理)
西山 孝(京大工)
- 7 D21 ケイ質堆積物中の水
野口浩一、大隅多加志、松尾禎士(東工大)

日本化学会から上記会議についての詳細な内容がとどきましたのでその要点を以下に掲載します。

1. 申込用紙の請求

用紙には、研究発表申込用紙と参加登録・団体旅行申込用紙の2種類があります。必要な申込用紙の種類および同伴者数を明記し、A4判(21×30cm)の用紙が入る返信用封筒(ご自分の住所、氏名、郵便番号を書き、200円切手を貼ったもの)を同封して、日本化学会事務所(〒101 千代田区神田駿河台1-5)ハワイ年会係(03-292-6161、担当者 松前)まで申込用紙をご請求下さい。

2.2. 研究発表の申込み

- (1) 一般研究発表とシンポジウム講演の2種類があります。申込みは、いずれか1人1件に限ります。
- (2) 一般研究発表の内容は未発表のもので、講演時間は20分以内となる予定です。
- (3) シンポジウムの応募講演の内容は、既発表のものを含んでもよいが、発表しようとするシンポジウムの主題に適合することが必要です。
- (4) 発表は日本語でもよく、講演に際して複数の座長が討論のお世話をしますので、国内の研究発表と同様にお考え下さい。ただし、アブストラクト(予稿集原稿)およびスライドは英文に限ります。
- (5) 研究発表の申込締切は、昭和53年10月9日(月)午後5時(上記ハワイ年会係に必着)を厳守いたします。

3. 参加登録・団体旅行の申込み

- (1) 参加登録料は、次表の通りです。昭和54年2月15日までに受付けたものはアメリカに送金し事前処理をしますが、2月15日以後に受付けたものは現地に持参し年会本部(シェラトン・ワイキキホテル内)で処理します。現地の事務処理は、時間がかかる定評がありますので、2月15日までに参加登録を済されるよう強くおすすめします。

参加者の種別	2月15日まで	2月16日以後
日本化学会およびこの会議開催に協力中の学協会の会員	60米ドル	85米ドル
上記学協会所属学生会員	15米ドル	20米ドル
上記会員でない学会参加者	85米ドル	110米ドル
上記3種の参加者の同伴者	20米ドル	25米ドル

- (2) 年会参加のための団体旅行は、5泊7日の標準日程で次の運行計画と団体料金で、申込みの受け付けをいたします。申込締切は昭和53年12月末日といたします。

【運行予定計画】

- A: 3月31日東京または大阪発、同日ホノルル着
4月5日ホノルル発、4月6日東京または大阪着
B: 4月1日東京または大阪発、同日ホノルル着
4月6日ホノルル発、4月7日東京または大阪着
C: 4月2日東京または大阪発、同日ホノルル着
4月7日ホノルル発、4月8日東京または大阪着

《5泊7日の団体料金(航空運賃+宿泊料)見込額》

ホテル・ランク	東京発料金(円)	大阪発料金(円)
D(デラックス)	145,000~165,000	150,000~170,000
F(ファースト)	135,000	145,000
S(スタンダード)	130,000	140,000
E(エコノミー)	125,000	135,000

編集者 安藤 厚・柴田 賢
発行所 日本地球化学会
〒113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル(4F) 日本学会
事務センター内
電話 東京 03(815)1903
振込先銀行 三井銀行上野広小路支店
口座番号 9-55247

日本地球化学会 ニュース

No. 85

1978. XII. 25

1978 年度 日本地球化学会総会報告

10月6日、午後1時より2時20分まで、北大水産学部大講義室において会員80名の出席のもとに総会がひらかれた。

1. 会長挨拶
2. 年会委員長挨拶—準備委員会を代表して西村氏
3. 1977年度事業および決算報告、鳥居監事の監査結果の報告があり、これを承認した。(別掲)
4. 1978年度事業および収支中間報告がおこなわれた。(別掲)
5. 1979年度事業計画および予算案を承認した。(別掲)
6. 会則第13条の一部改定を承認した。(別掲)

1977 年度事業報告

1) 会員移動

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1977年1月	819名	18名	7名	844名
入会	67	0	0	67
退会	25	0	1(逝去)	26
除名	68	0	0	68
1977年12月	793	18	6	817

2) 委員会等開催数

総会	1	評議員	4	将来計画	1
年会	1	財政	2	選挙管理	3
例会	3	編集	2	極地問題検討	2
幹事会	3	行事	2	会則検討特別	1

3) ニュース発行 No. 80, 81, 計12頁

4) 会誌 G. J. 10 No. 4, 11 No. 1~4 計325頁
地球化学 11 No. 1, No. 2 計82頁

5) 会員名簿 1977年度名簿発行

6) 役員選挙 1978~1977年度役員選挙

7) 学協会共催等

第5回生命の起源シンポジウム (1977年4月)

第14回理工学における同位元素研究発表会

(1977年6月)

NGO 被爆問題シンポジウム (1977年7月)

第26回国際純正応用化学連合 (1977年9月)

「無脊椎動物および植物の石灰化機構」に関する研究集会 (1977年10月)

8) 例会

2月5日 生命発生の条件 野田春彦, 大島泰郎 (於: 東大理学部化学教室)

6月11日 南極観測の20年の歩み—地球化学を中心として 鳥居鉄也, 隕石 本田雅健 (於: 東海大海洋学部)

12月10日 琵琶湖堀削試料の古気候的研究 堀江正治, 中井信之 (於: 東大理学部化学教室)

1977 年度会計報告

一収入一	13,058,488円	
	円 (予算千円)	
1 会費	4,867,766	(5,120)
正会員費	4,511,766	
学生会員費	76,000	
賛助会員費	235,000	
入会金	45,000	
2 刊行物売上	3,333,516	(2,890)
国内	1,301,000	
国外	1,369,022	
別刷代	636,494	
3 広告収入	0	(50)
4 助成金	700,000	(650)
5 雑収入	151,958	(50)
6 寄付金	200,000	
7 名簿積立金	280,000	
8 前年度繰越金	3,525,248	(830)
合計	13,058,488	(9,590)
一支出一	11,082,187円	
	円 (予算千円)	

1 事業費	9,496,089	(8,210)
1.1 出版費	6,654,139	(5,300)
会誌印刷	5,766,039	(4,600)
G. J.	3,991,420	(3,300)
地球化学	924,524	(1,100)
別 刷	739,695	—
ニュース	110,400	(200)
編集費	350,000	(300)
発送費	538,100	(400)
1.2 行事費	202,110	(300)
1.3 名簿印刷費	356,400	(350)
1.4 事務委託費	1,147,120	(1,000)
1.5 会誌販売	436,320	(1,060)
1.6 学会基金	700,000	—
2 管理費	1,586,098	(1,100)
人件費	720,000	(360)
会議費	328,228	(280)
評議員会	150,228	(200)
委員会	178,000	(80)
通信費	207,380	(100)
旅 費	180,800	(200)
消耗品費	77,970	(100)
雑 費	143,440	—
合 計	11,082,187	(9,590)
次期繰越金	1,976,301	

計 13,058,488

1978 年度事業中間報告

1) 会員移動

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1978年1月	793名	18名	6名	817名
入 会	23	1	0	24
退 会	16	1	2(逝去)	19
1978年10月	800	18	4	822

2) 委員会開催

総 会	1	評議員	3	将来計画	1
年 会	1	財 政	1	極地問題検討	4
例 会	2	編 集	1	環境特別	3
幹事会	2	行 事	2		

3) ニュース発行 No. 83/83, 84 計 16 頁

4) 会誌発行 G. J. 12 No. 1, No. 2 計 132 頁

地球化学 12 No 1 36 頁

- 5) 出版「水汚染の機構と解析」産業図書
- 6) 共催等
講演会「元素の起源」黒田和夫氏 (1978年6月30日)
第15回理工学における同位元素の研究発表会 (1978年6月27日～29日)
- 7) 学会センターの事務契約完了
- 8) 例 会
2月18日 地球化学的手法による地震予知 脇田 宏,
地球化学的手法による噴火予知 小坂丈予
(於: 本郷学士会館)
6月10日 シュミレーション鉱物学 松井義人
シュミレーション融体学 古川和男
(於: 東大理学部化学教室)

1978年度収支中間報告 (上半期会計)

—収入—	円	(予算千円)
1 会 費	4,225,600	(5,460)
正 会 費	3,760,600	
学生会員	157,000	
賛助会員	285,000	
入 会 金	23,000	
2 刊行物売上	1,530,979	(4,240)
バックナンバー	761,640	
別 刷	674,574	
会 誌	94,765	
3 広告収入	0	(50)
4 助成金	(1,020,000)	(700)
5 雑収入	118,551	
6 繰越金	1,976,301	
合 計	7,851,431	(12,700)

—支出—

1 事業費	4,221,476	(9,807)
会誌印制	2,716,726	(5,930)
G. J.	1,886,000	
地球化学	462,156	
ニュース	81,000	
例 会	7,520	
別 刷	280,050	
編集費	300,000	(400)
発送費	113,040	(405)
行 事	30,000	(300)

事務委託費	1,050,000	(1,128)
会誌販売	11,710	(1,396)
2 管理費	237,498	(1,100)
3 積立基金	—	(500)
4 予備費	—	(1,291)
合 計	4,453,974	(12,700)

1979 年度事業計画

- 1) 総会 1, 2) 年会 1, 3) 例会 3, 4) 評議員会 4, 5) 幹事会 2～3, 6) ニュース発行 3, 7) 会誌発行 G. J. 13 No. 1～6, 地球化学 13 No. 1, 2
8) 会員名簿発行, 9) 役員選挙, 10) 共催 第16回理工学における同位元素研究発表会

1979 年度予算

収入の部	支出の部
1 会 費 5,286千円	1 事業費 11,448千円
2 刊行物売上 5,810	1.1 出版費 7,468
3 広告収入 100	会誌印刷 6,300
4 助成金 1,200	編集費 500
5 雑収入 50	発送費 668
6 繰越金 1,450	1.2 行事費 300
合 計 13,896	1.3 名簿印刷 500
	1.4 事務委託 1,184
	1.5 会誌販売 1,996
	2 管理費 1,205
	2.1 庶 務 300
	2.2 通 信 55
	2.3 会 議 300
	2.4 旅 費 400
	2.5 消耗品 50
	2.9 雑 費 100
	3 予備費 1,243
	合 計 13,896

会則第13条の一部改定

第13条(2) Geochemical Journal (原則として年4回発行) を→(原則として年6回発行) に改定

第2回地球化学「若い人の会」を終えて

函館において「若い人の会」が10月7日1978年度年会終了後から翌8日夕方まで、全国各地から集った34名の「若い人」によって催された。予定された講演

以外にも、年会で時間切れのため話せなかった発表、年会での難解な話をもう一度というリクエストや、地球化学は、まず体力と金が必要条件であるというスライド発表など、飛び入りの話題提供も続出し、話を進めていく途中で、活発な質問、意見が交された。お互いの専門分野以外の話もしっかり聞け、安心して？質問ができ、自分の周辺領域を一段と広く理解することができたと思われる。また、これからの地球化学を築き上げる若い仲間の多くと知り合えたことは、意義深いことであろう。

来年度もあまり形式ばらずに、気楽な雰囲気集まりを持とうということで、東工大理学部松尾研究室に、お世話していただくことに決まった。

参加したところ。

都立大、北大、東工大、名大、東大、神奈川温研、東海大、京大、島根大、琉球大。

(世話人 北大水産 植松光夫)

本会名誉会員 太素康光氏 (北海道大学名誉教授 函館工業高等専門学校名誉教授) には昭和53年5月31日に逝去されました。謹しんで哀悼の意を表します。

なお本会より生花弔辞を献呈いたしました。

本会名誉会員 石橋雅義氏 (京都大学名誉教授 金沢大学名誉教授 奈良大学名誉学長) には昭和53年9月18日に逝去されました。謹しんで哀悼の意を表します。

なお本会より生花弔辞を献呈いたしました。

第10回有機地球化学談話会報告

函館市における日本地球化学会年会、最終日(10月7日)の午後5時30分より7時まで、北大水産学部化学教室において有機地球化学談話会がひらかれた。出席者は28名であった。

会計報告および事務報告の後、森島 宏氏(石油開発公社)によって、Gordon Research Conference (1978年、7月)に発表された研究の動向について簡単な紹介がなされた。

議題として、第4回有機地球化学シンポジウム開催の提案が出され、1979年にひらかれることが決定され大会場の候補に東大海洋研があげられた。シンポジウムの世話人に名大半田氏が決まった。

なお、第2回および第3回シンポジウムにおいて報告された研究の論文が集録されている Research in Organic Geochemistry の No. 1 および No. 2 を計 1,500円 (送料込み) で会員以外の希望者にもお買上げいただきたく思います。御希望の節は下記へ連絡して下さい。

記

〒158 東京都世田谷区深沢 2-1-1
東京都立大学理学部分析化学教室内
有機地球化学談話会

新刊紹介

●水汚染の機構と解析—環境科学特論—

日本地球化学会編 産業図書 (1978) 292頁 2,600円
水汚染に関する理論は数多く紹介されているが、実際の水域では、境界条件・再現性・因子数の多さ、および因子相互間の関係が複雑なために、それらの理論の現場への適用がほとんどなされていない。一方、環境制御の立場からは、国・地方公共団体等において、多くの環境データの集積が行なわれており、そのデータの理論的解析が要求されるようになってきている。本書は、このような状況をふまえ、理論と実際の結びつけを行うため、本学会員の各分野での専門家による最新の研究成果をとりまとめたものである。対象は河川・湖沼・海域の水圏全体をふくみ、特定地域で問題となっている水汚染を取り上げ、その解析と、汚染機構の解明を行っている。

本書は日本地球化学会として取り纏めた最初の本であり、会員諸氏の一読をお勧めしたい。(市川 新)

●Clays and Clay Minerals of Japan

須藤俊男・下田 右 編著 講談社 (1978)
326頁 7,000円

最近まで東京教育大学の地質教室に在職され、本邦並びに世界の粘土鉱物学の研究に主導的立場におられる須藤博士と、そのもとで永年にわたって補佐役を務められた下田博士が、世界の縮図とも云われる日本各地の粘土及び粘土鉱物の全般にわたって、項目別、成因別に、その分野の本邦における最高権威の分担執筆のもとに、海外にも紹介する目的も含めて英文で纏められたものである。その内容と執筆者は、1. An Outline of Clays and Clay Minerals in Japan (概要)—須藤俊男、2. Weathering of Volcanic Ash and Other Pyroclastic Materials (火山灰物質の風化)—長沢敬之助、3. Wall Rock Alteration of Kuroko

Deposits (黒鉱母岩の変質)—白水晴雄、4. Allophane and Imogolite (アロフェンとイモゴライト)—和田光史、5. Kaolin Minerals (カオリン鉱物)—長沢敬之助、6. Smectites (スメクタイト—モンモリロナイトほか)—武司秀夫、7. Chlorite Minerals (緑泥石族鉱物)—白水晴雄、8. Interstratified Minerals (混合層鉱物) 下田 右 となっており、それぞれの粘土や粘土鉱物について、主として本邦各地の例をとり、その概要、記名法、産状、光学的性質、結晶構造、化学成分、その他の諸性質並びにその生成或は成因などにわけて詳しく記載されており、とりわけ産状、成因的考察など地球化学的分野にわたる部分にも多くの頁が割かれている。

出版元の講談社が提携したオランダの Elsevier 社ではこの本を“Developments in Sedimentology”(堆積学の進歩)のシリーズ(26)にとり上げている。(小坂文予)

第16回理工学における同位元素研究発表会のお知らせ

会 期: 54年6月25日(月)~27日(水)

会 場: 国立教育会館

発表申込締切り: 54年2月28日(水)必着

申し込先: 〒113 東京都文京区本駒込 2-28-45
日本アイソトープ協会内 理工学における同位元素研究発表会運営委員会(所定の申込用紙を使用のこと)

講演要旨集残部のお知らせ

去る十月函館にて開催した「1978年度地球化学会年会」の講演要旨集を3,000円(送料共)でおわけします。なお、教育用など地球化学の普及にご使用の場合は特別価格(500円、荷造送料別)にしますのでご相談下さい。

連絡先: 〒041 函館市港町 3-1-1 北大水産学部 西村雅吉(電話 0138-41-0131)

編集者 安藤 厚・柴田 賢

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生 2-4-16

学会センタービル(4F) 日本学会

事務センター内

電話 東京 03 (815) 1903

日本地球化学会ニュース

No. 86

1979. V.15

選挙公示

日本地球化学会1980・1981年度役員選挙の 立候補者および推薦候補者の届出について

1979年5月8日

日本地球化学会役員選挙管理委員会

本会会則により1980・1981年度役員選挙を次の日程で行ないます。

立候補者・推薦候補者×切 7月31日(必着)
選挙公報・投票用紙・会員名簿発送

8月25日

投票×切 9月30日(必着)
選挙結果公表(総会) 10月2日

つきましては、下記により、会長・副会長・評議員に対してそれぞれ立候補者および推薦候補者の届出をしていただくようお願いします。

1. 会長1名、副会長1名、評議員20名を選出します。

- 立候補者の届出は、届書を立候補者自身が、I) 本委員会に持参するか、またはII) 本委員会宛に送付してください。
- 推薦候補者の届出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に、推薦候補者の承諾書をそえて、推薦者またはその代表者がI) 本委員会に持参するか、またはII) 本委員会宛に送付してください。
- 第2項と第3項に記した以外の方法で届出が行なわれた場合には、届書をうけつけることができません。郵送の場合は、「書留郵便」として下さい。届書の封筒の表に(選挙)と記入して下さい。
- 届出の×切は、1979年7月31日(必着)です。
- 本委員会の所在地は、
東京都豊島区目白1-5-1(〒171)
学習院大学理学部 木越邦彦

お知らせ

新名簿発行のため、住所および勤務先変更のかたは、至急、学会事務センターへご連絡下さい。6月30日を×切とします。